

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 笠岡市炉端の家

日付 平成19年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、居宅
介護支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 「あなたのお顔に書いています。ご夫婦円満でしょう。私の主人は優しい人でしたが、私も口答えした事一度もありません。勿論喧嘩もですよ。あなたも私と一緒に。お顔を見ていたら分かりますよ。お幸せですね。私も幸せ」。 4年の間七夕様の如くOOさんと年1回懇意に話をさせて貰った。少女のような恥じらいの表情やしぐさ、そして彼女の醸し出すほのかな色香は全く失われていない。初めて会った時はホームからずっと離れた道を掃除していた。今はそんな元気はないが、とても90歳に手が届くようには見えな い。 別れ際になって披露してくれたOOさんの白石踊りや囃子詞もイキな「語り節」も見応えのあるものだった。踊り出したらやめられないOOさんは勿論、足も踊っていた娘に蘇っているようだった。「私はこれからどうなっていくの？私はどうしたらいいの？お母さんに会えなくて…」とさめざめと涙を流すOOさんも居て、その悲しみも真綿で包み込まれている。こんな利用者一人ひとりの世界が、大切に、大切にされている。 パリデーションを始めとして認知症ケアについて充分研修し、実績を積み重ねてきた職員揃いだが、自分達の勝手な思い込みを常に反省し、自己満足する事なく、その人の心のひだに入り込もうとしている。 ホーム開設十周年を過ぎ、利用者の身体状況も重度化し、ケアも大変な局面を迎えているが、ホームには明るい笑い声が満ち溢れている。当日丁度訪問していた家族も、「職員の皆さんが朗らかだし、楽しそうで嬉しい」と話していた。グループホーム開設二十周年に向けて第一歩を踏み出している今、目標は具体的に、気負わず、焦らず、自分達流で一步一步進んで欲しい。 特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 認知症ケアでは、テレビの放映もあつたりして日本全国から注目され「炉端の家」だけの業務に止まらない忙しさがあると思います。利用者も重度化しているが、ホーム内は笑い声に満ち溢れていて、今の状態を継続させて行かれるのが良いと思います。地元との更なる交流・他のホームの見学等も、今後の課題として少しずつ進めていって下さい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か ミーティングで今年の目標を「スタッフ同士、報告・連絡・相談の徹底。地域との交流」等各人挙げ、ホーム全体の大目標を「本人・家族・スタッフみんなの想いに耳を傾け受止めて大切に」と定めている。そして具体的には「アンテナを広げスタッフ間で共有しよう」としている状況が、今日の訪問中にも伺われた。何気ない会話の中で、ふと漏らした言葉からその人の想いをキャッチし、形につなげようとしている。重度の人に対しては、本人や家族の様子をしっかりとらえ「もしかすると…かもしれない」と察知しようとしている。「今という瞬間を大切に、今しか出来ない事、を真剣目指しているホームである。又、昨年9月にこのホームで看取る事が出来たOOさんの話になると、職員の目に涙が滲む。その時、その時、精一杯考え、力の限りを尽くしていても、悔いや反省が後を引く。こんな真摯な姿勢のホームで最期を迎えられ、いつまでも想いを寄せられているOOさんは幸せと思う。		

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 十年以上も前に創られたグループホームには、先見の明あるホームである事は周知の通りであるが、利用者の重度化に伴い、少し前、リビングルームや居室の一部を改修して今の状況に対応し易くなった。この他にも、別に職員は様々な工夫を凝らし、柔軟な使い方をしている。中庭や周囲の敷地も広く、利用者本人の活動の場と言うより、見て楽しむ場が変わりつつある。家族や地域の人々の応援を頂く良いチャンス・良い場にして頂きたい。遠慮しないで応援の声を上げて欲しい。		

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「かつて看取りをしたOOさんが、常に墓参りをしたい等話していたので願いを叶えてあげたが、あれは、果たして本当に良かったのか？職員側の自己満足ではなかったか？」ある職員は今でも思いを巡らしている。結論を出せずにいる職員の迷いや自己反省の姿勢が、今日の、明日へのより良いケアに結びついているように思う。しかし、こんな真摯な職員の眼差しと同時に感じられるのが、今の暮らしを共に楽しんでいるような雰囲気だ。話し言葉が何時も歌になってしまうようなOOさんに、職員はミュージカル風に応える。辛口の冗談も結構お返し出来るOOさんと、なんだかんだとやり合っては笑い合う。表現の方法が少なくなってしまう人とも、心底楽しそうにお喋りする。「本物が買物か、鋭い感覚が冴えている人々から信頼されている職員が居るからこそ、この「炉端の家」はお互いを尊重しあった生活になっているのだろう。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、 一年前事業所内異動で「炉端の家」を築き上げてきた管理者が交代し、職員の年齢も横並び的になってきた。しかし、その特性も上手に活かし、「報告・連絡・相談」もよく出来ており、「今まで築き上げられたもの」を壊さないようよく頑張っている。昨年のテレビ放映の反響も大きく、撮影当時のみならず、その後の各種対応にも相当な負担があったと思われるが、一つ一つ丁寧な対応で大きな社会貢献をしている。また、問題点の一つとして取 また、問題点の一つとして取り上げている「看護師不在」となった為の弱点に対しても体制作りや研修を重ねる等、よくカバーしているようだ。こういったリスクも、職員の資質向上悪い事ばかりではないと思う。家族ともより強い絆を持ち、近隣の人達にこのホームの姿を少しでも知ってもらおうよう、歩を進めて欲しい。		